

2019年7月30日
日本船主協会 海事人材部

荒川区立尾久八幡中学校「勤労留学プログラム」に協力

当協会では「人材確保タスクフォース」を設置し、船員教育機関等と連携しつつ優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を展開しています。

この度、その一環として、2019年7月8日（月）から12日（金）の5日間、東京都荒川区立尾久八幡中学校の「勤労留学プログラム」に協力しました。

荒川区立尾久八幡中学校の「勤労留学」は、中学2年生が様々な職種の中から1つの職業を選択し、実際に職場を訪れて5日間の職業体験を行うものです。今年度、当協会は初めての要請を受け、日本郵船株式会社、株式会社商船三井、川崎汽船株式会社、株式会社日本海洋科学、郵船クルーズ株式会社、独立行政法人海技教育機構の協力を得て、5日間のプログラムを実施しました。

5日間のプログラムには、当該中学校より2年生7名が参加しました。7月8日（月）は、当協会にて海運や船についての説明を行い、その後、(株)商船三井の安全運航支援センターへ見学に行きました。7月9日（火）は、(独)海技教育機構の日本丸にて、ロープワークやジグーステイスル展帆などの体験や船内見学を行いました。7月10日（水）は、川崎汽船研修所にて操船シミュレータ体験を行い、7月11日（木）は日本郵船東京コンテナ・ターミナルにてヤードの見学やコンテナ各種のメンテナンス作業を体験しました。最終日の7月12日（金）は、(株)日本海洋科学にて再び操船シミュレータ体験をした後、飛鳥IIの見学に行きました。

5日間、中学生は熱心に体験に取り組みました。また、体験の中で、「なぜ船員になろうと思ったのか」、「どのような時にやりがいを感じるか」、「乗船中に危険な目に合ったことはあるか」、「海賊は存在するのか」などの質問も挙がりました。

もともと海運にあまり馴染みが深くなかった参加中学生にとって、5日間の職業体験を通して、船員という職業を知る良い機会となりました。

人材確保タスクフォースでは、今後もこうしたキャリア教育の場などに積極的に参加し、海技者の魅力を伝え、職業の認知度向上に努めていきます。



7月8日

商船三井の安全運航支援センターを見学



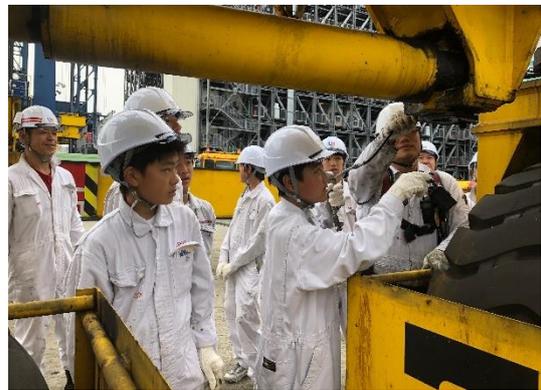
7月9日

海技教育機構の日本丸にて展帆体験



7月10日

川崎汽船研修所にて操船シミュレータ体験



7月11日

日本郵船東京コンテナターミナルにて
メンテナンス作業体験



7月12日

日本海洋科学にて操船シミュレータ体験



7月12日

大さん橋にて飛鳥IIの見学